１　はじめに

令和８年第１回伊達市議会定例会の開会に当たり、令和８年度の市政執行につきまして、私の所信の一端を申し上げます。

本市の未来を拓く指針である第７次伊達市総合計画に基づくまちづくりは、描いた目標を確かな形にしていくための重要な段階に差し掛かりました。この１年は、これまでの成果を更に積み上げ、次なる飛躍へとつなげるための、大切な一歩を刻む年であります。

現在、世界に目を向ければ、各地で続く戦争や紛争のほか、レアアースの供給不安や関税を巡る貿易摩擦など、安全保障や経済分野において非常に不安定な情勢が続いております。また、国内においては、こうした外的要因による急激な物価高騰に加え、想定を超えて進行する人口減少や少子高齢化により、本市を含む地方の自治体は極めて危機的な局面に立たされております。これに伴い生じる労働力不足や地域コミュニティの維持は、私たちが、今まさに、真正面から向き合わなければならない深刻な課題であり、この物価高騰等に伴う極めて厳しい財政状況の下での市政運営に当たっては、効率的かつ効果的な行財政改革を一層推進することが強く求められております。しかし、私は、これを人生１００年時代における新しい社会モデルを構築する好機と捉え、伊達市を強く、豊かにしていく決意であります。

こうした構造的な課題を解決するために何より大切なのは、災害への備えや地域医療、地域経済を守る「危機管理投資」を適切に行うことであり、地域に住む皆さまが自らを守る「自助」、そして市民同士が互いに支え合う「共助」の取組を力強く育んでいくことも欠かすことができないと考えております。

住民と地域による「自助・共助」の力に、行政による「公助」、すなわち、安心を支えるための各種施策への継続的な投資が重なり合うことで、はじめて本市の確かな成長を支える盤石な基盤が形づくられるものと考えております。

この確かな基盤を築いた上で、更に本市を未来へと前進させる力として、地域を越えて寄せられる多彩な知恵や活力といった新しい風を積極的に迎え入れ、皆さまと共に、誰もが成長を実感できる地方創生を実現して参ります。

併せて、時代の変化に応じた実効性の高い取組を、スピード感を持って着実に進めることで、次世代へ持続可能な行政サービスをつないで参ります。

こうした「成長を支える基盤」の構築と「新しい風や取組」を取り入れる目的は、次世代を担う若者が、一度まちを離れても「やはり伊達に戻ってきたい」と、そして、今ここで暮らす皆さまが「ずっと伊達に住み続けたい」と心から思える魅力的なまちを創ることにあります。

本年４月に子どもたちの健やかな成長を支える拠点として開設するこども家庭センター、更に11月にオープンする、多世代の学びと交流のサードプレイスとなる新しい図書館は、その象徴であり、市民がこのまちに誇りを持ち、この地で自らの未来を描く土壌となるものであります。

この土壌を大切に育み、「みんなが豊かさを感じられる市民幸福度最高のまち」をいち早く実現するため、私は、本市のまちづくりの中心に「子どもの笑顔が真ん中にあるまち」を基本理念として据え、全力を尽くす所存であります。

子どもたちが希望を持って健やかに育つ姿は、地域の活力を生み出し、多世代が支え合う、強く温もりのある社会の源となります。この理念を揺るぎない軸とし、次の７項目を最優先事項と位置付け、市民の皆さまと対話を重ねながら、令和８年度における取組を力強く進めて参ります。

・子どもたちの自信と笑顔があふれるまちづくり
・子育てがしやすいまちづくり
・安心・安全に生活をおくれるまちづくり
・地域経済に活気のあるまちづくり
・市民一人ひとりの声を受け取るまちづくり
・持続可能で充実した行政サービスを提供できるまちづくり
・伊達市の将来を見据えたまちづくり

これら最優先事項の着実な推進を通じて、本市が目指す将来像「みんなが豊かさを感じられる市民幸福度最高のまち」を一歩ずつ、確かに形にするべく、令和８年度に展開する予算編成及び主要施策について、以下にその概要を申し上げます。